



劇場版  
Fate  
stay night  
Heaven's Feel  
II  
lost butterfly  
2019.1.12  
ROADSHOW [Sat]

想像を超え第二章、開幕



劇場版「Fate/stay night [Heaven's Feel]」

# CAST CROSSTALK

## 杉山紀彰 [衛宮士郎役] × 下屋則子 [間桐桜役]

劇場版「Fate/stay night [Heaven's Feel]」, presage flow er (以下 [HF]) が公開されて半年以上が過ぎました。あらためて [HF] の第一章のご感想をお聞かせください。

杉山 ファンの皆さんが長年待ち望んでいたルートの初映像化であり、三部作による劇場版の第一作ということで、反響がとても大きかったなと思います。舞台挨拶で直接ファンみなさんの反応を見ることができましたし、お手紙でご感想をいただくこともありました。作品としては『Fate/stay night』をある程度ご存知の方に向けた内容になっていると思いますが、従来のファン、新しいファンどちらの方も楽しんでいただけたのかなという印象があります。

下屋 ゲーム版(『Fate/stay night [Réalta Nua]』2006年)の音声を収録したことは、まさか [HF] が劇場版という素晴らしいかたちで映像化されるとは思ってもいませんでした。でも、こうやって公開されたことで、TYPE-MOON 作品ファン、『Fate』シリーズのファンが国内外に広がっていることがわかって、本当にすごい作品なんだとあらためて思いました。そして、何よりも [HF] を映像化したいと手を挙げてくださった須藤(友徳)監督と ufotable の皆さん、ANIPLEX の皆さんの愛情と情熱とこだわりを感じることができました。おふたりにとって [HF] とはどんなルートでしょうか。

杉山 『Fate/stay night』に3つあるルートの最終ルートであり、間桐桜がヒロインのストーリーになります。士郎にとっては、友人の妹であり後輩だった桜が異性として守りたい存在になっていく。そして、士郎が桜のために生きようとする。それがこのルートの特徴だと思います。

下屋 劇場版『Fate [HF]』では、これまで描かれていなかった桜と士郎の出会いを描いてくださって、桜がなぜ士郎の家に通うようになったのか。桜は士郎のもとに家事を手伝うために来たのに、何もできなくて。それを士郎が辛抱強く教えてくれて。桜も段々出来るが増えて、桜と士郎がお互いにかげがえのない存在になっていく。その過程を丁寧に描いていただけたのがうれしかったです。

第一章において、おふたりの印象に残っているシーンがあれば、それぞれお聞かせください。

杉山 「桜と士郎が衛宮邸の土蔵で話し合うシーン」ですね。ふたりで会話をしているのに、お互いが考えていることは違って、噛み合っていない。噛み合っていないけれど、お互いを気遣っているシーンなので、[HF]らしさを感じるシーンだったと思います。

下屋 私も [HF] で印象的なシーンをあげると、杉山さんと

同じ「土蔵のシーン」ですね。桜が自ら自分の話を語ったことは、これまでになかったんですね。桜が育った環境と、士郎が育った環境があまりにも違うので、お互いの考えていることが全然違う。そのずれの違いを、映像としても描いている。ストーブの灯りだけがふたりを照らしていたのに、やがてその灯りも消えてしまう。監督が想いを込めて演出していると伺って、私もすごく感銘を受けました。収録の時も「あえて杉山さんのセリフを受ける芝居にしない」ように意識していましたね。

杉山 会話のように質問をしているんですが、お互いの回答はモノローグのような感じがあって。ふたりがセリフに込めていた中身(心情)が何だったのかは第二章、第三章で明らかになっていくんでしょうね。全部見終わった後に、もう一度第一章のこのシーンを見ていただくと、桜が本当に言いたかったことがわかる、とても素敵な作り方だなと思いました。

いよいよ次は第二章。どんなところが楽しみですか？

下屋 きっと私の想像を超える第二章になると思います。[HF] は桜だけでなくイリヤのルートでもあるので、ぜひ、イリヤの活躍も楽しみですね。

杉山 楽しみであると同時に、より頑張らないといけないという思いがあります。バランスに気を付けて臨みたいと思います。

10年以上にわたり愛されている『Fate』シリーズの魅力は何だとおふたりはお考えになりますか？

下屋 一言では語り切れないんですが、奈須さんがお作りになったキャラクターたちがとても深く作り込まれていたからこそ、ここまで多彩な展開ができるんだと思います。

杉山 どんなジャンルの作品に登場しても「アーチャーだ！ 凜だ！」とすぐにわかる。それがすごいですよね。サーヴァントもマスターもいまやキャラクターが確立していて、劇団『Fate』の人気俳優さんたちのような存在になっている。人気俳優さんたちが次は料理ものに出演したり、魔法少女ものに出演したり、新しい作品に出演している感じがあるんですね。だから、ファンみなさんは「あの役者さんは今度はどんな役をやるんだろう？」と楽しんでいらっしやるのかなと思います。

下屋 たしかに！ そう考えると、わかりやすいですね。今後もサーヴァントやマスターがどんな活躍をするのか、私も楽しみにしています。

### 杉山紀彰

すぎやま・のりあき / 東京都出身、ステイラック所属。2006年アニメ『Fate/stay night』で衛宮士郎を演じる。以来、『Fate/kaleid liner プリズマ☆イリヤ』『Carnival Phantasm』で衛宮士郎を担当している。アニメの代表作に『NARUTO -ナルト-』うちはサスケ役、『BLEACH』石田雨竜役、『ヘタリア』イギリス役など。

### 下屋則子

したや・のりこ / 千葉県出身、81プロデュース所属。2006年アニメ『Fate/stay night』で間桐桜を演じる。以来、様々なメディアで間桐桜役を担当。ゲーム『Fate/EXTRA CCC』や『Fate/Grand Order』ではBB役を演じた。アニメの代表作に『GOSICK -ゴシック-』アブリル・ブラッドリー役、『テイルズ オブ セスティリア』ザクロス・ライラ役など。